

Rotary



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／牛山幸一
- 副会長／梅垣和彦・林広一郎
- 幹事／中嶋孝一
- R情報(会報)委員長／濱 毅

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-1・Tel/0266-22-6939・Fax/0266-23-6939
URL: okayarc.org・Email: okayarc@bz04.plala.or.jp
- 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

第 2795 回例会 2017 年（平成 29 年）05 月 30 日(火)

点 鐘：牛山幸一
斉 唱：我等の生業

司 会：上條英雄
ラッキーNo：NO. 4 梅垣和彦

会長挨拶

5/24, 25と、富岡ロータリーとの友好クラブ締結調印式に出席して来ました。式典、記念講演、懇親会と、3部構成で行なわれました。私自身、非常に緊張しまして原稿の準備はしていたのですが、まともに話をしたのか分かりませんでした。

また、記念講演は「ロータリーという魔法」という演題で、富岡ロータリーのバスター会長の峯岸さんの講演がありました。会員セミナーは、非常に役に立つ話でありました。岡谷クラブの会員セミナーに来ていただいて、もう一度、聞ければと思いました。懇親会は、非常に友好的に盛り上がり楽しい時を過ごさせていただきました。終了後も、何軒もの店をハシゴされた会員もあつた様です。

25日は、富岡C.Cで親睦ゴルフコンペを行い、岡谷クラブの山崎会員が優勝、矢島実会員が準優勝と、岡谷クラブで独占しました。ちなみに、ホテルも岡谷クラブで占めました。帰って来てからも、非常に盛り上がり楽しい二日間でした。みなさん、ご協力ありがとうございました。

幹事報告

- 次週 6/6 の例会は、会場がメモリーとなりますのでお間違いのないようお願いいたします。時間は12:30点鐘です。
- 6月のRレート 1\$110円

委員会報告

親睦委員会 6/3(土)バスハイクに参加の方は、ホテル岡谷8:00出発です。中国観光バスと出発が重なるようですが臨機応変にご対応ください。できれば自家用車で来るのは避けてください。飲み物はこちらで用意しますが、希望がありましたら事務局までご連絡ください。当日はよろしくお願いたします。



卓話「太平洋戦争中の長野県内の防空体制」

林 広一郎 プログラム委員長

2017年(H.29年)5月30日(火)

岡谷ロータリークラブ卓話

太平洋戦争中の長野県内の防空体制

【内容】

- 防空体制のしくみ
 - 防空体制の運用状況(その1) 長野県内の防空監視体制ほか
 - 防空体制の運用状況(その2) 対空監視に使われた電波警戒機(レーダー)
 - 防空体制の運用状況(その3) 長野県内に設置された対空監視哨
- 【関連事項】
- 電波標定機 製造開発の取り組み

防空体制のしくみ

○防空監視哨と対空監視哨

- 太平洋戦争中、わが国の防空体制には大きく2つありました。
- ① 肉眼や双眼鏡、聴力により上空の飛行機の機種や進行方向を監視した「防空監視哨」
 - ② 複数の監視哨を結んだ電波の網で飛行物体の接近を監視した「対空監視哨」

	防空監視哨	対空監視哨
管理統括	民間(警察)	軍部(陸軍・海軍)
方法	主に目視、望遠鏡、耳聴	電波警戒機甲および乙
場所	山頂の聴音壕、屋上等	電波送受信に適した高台等
勤務員	在郷軍人の指導の下、青年学校の生徒などの勤労動員	兵校・下士官・一般兵
設置位置	数多い長野県内に64か所 山頂(高台)や屋上	海岸線沿いおよび本州縦断する警戒線に沿って 長野県内には5か所
連絡・通信方法	主に電話で地区を統括する防空監視隊本部へ連絡	無線使用
設置者	市町村が設置・管理(複数の市町村が資金拠出している)	軍が設置・管理

防空体制の運用状況(その1)

○長野県内の防空監視体制

長野県内には4か所の監視隊本部の下、64か所の防空監視哨が設置されていました。(内訳:長野監視隊本部に18か所、松本監視隊本部に18か所、上田監視隊本部に17か所、伊那監視隊本部に11か所)

○岡谷・諏訪・辰野地区の防空監視哨

岡谷・諏訪・辰野地区には5か所の防空監視哨がありました。組織上では伊那警察署内にあった伊那監視隊本部の管轄下となっています。

監視哨名	所在地	立地	設備	残存
岡谷	岡谷市今井 勝弦山	山頂	木造	記念碑
諏訪	諏訪市高島1丁目20	天守台横	木造	滅
湖東	茅野市湖東字塚4893	台地	木造・聴音壕	滅
富士見	富士見町富士見3596	高台	木造	滅
伊那富	辰野町宮木字上原	台地端	木造・聴音壕	滅



岡谷防空監視哨跡に建てられた記念碑

岡谷防空監視哨について『岡谷市史 中巻』P.152に記載があります。『軍が防空監視哨を推進の南西三角点に設置し、侵入航空機の監視を行い直接東部軍管区司令部へ報告した。哨員は岡谷市及び深・川岸・長地各村の青年学校生徒の中から選ばれ、交替で任務に当たり、6年余の期間中勤務したものの100余名であった。これに対し関係市・村は防空監視哨助成会を設立して後援した(監視哨跡には昭和48年10月哨員の手によって、記念碑が建てられた。)』

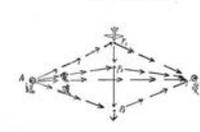
防空体制の運用状況(その2)

○対空監視に使われた電波警戒機(レーダー)

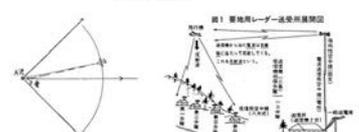
対空監視に使われた旧陸軍の電波警戒機には甲・乙の2種類がありました

- ① 電波警戒機甲: 送信機と受信機を地理的に離れた場所に設置することで警戒線を構築し、この線に接近してきた航空機を感知する方式。(ドップラー効果の原理を応用) 遠く前方の飛行機の監視は不可能
- ② 電波警戒機乙: 甲の欠点を補うため開発された警戒機。超短波をパルス発信し、目標から反射して返ってくる反射波を捉えてその要した時間を計り、反射物体の所在を知らうとする方式。(対飛空距離300km)

電波警戒機甲



電波警戒機乙



昭和15年に試作が完成。適宜の距離に送信所と受信機を配置し、飛行機が送受信を連ねる警戒線に近づくと、検出された場合とすると、電波(パルス)により飛行機を感知する方式。台にアンテナ方式にも言われた。ただこの電波警戒機甲はその原理上、飛行機を遠く前方において発見することができなかった。

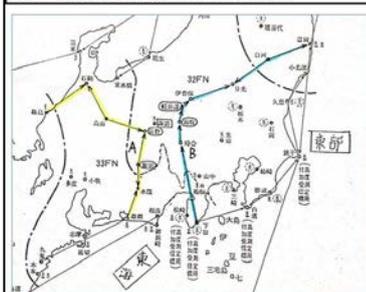
【軍用地タイプ】

送信所には送信機1基(2台1組で8時間毎に交替)が備えられており、高さ30~70mの高台上に架られた指向性アンテナから電波を発信していた。受信所には受信機4組(4個分)が設置されていて、受信機を各一戸建半室に設置し、その屋根の上に八木式アンテナを立て反射波を受信して警戒に当たっていた。ただこの電波警戒機乙は、山等の固定物も反射するたが陸軍では使用不可能だった。しかし長野県内では諏訪のみ、自家発電を備え自由に移動ができる野戦用タイプのものが設置されていた。

防空体制の運用状況(その3)

○長野県内に設置された対空監視哨

- ① 長野県内には本土を縦断する電波警戒機甲の警戒線が2本通っていました。そして4か所の対空監視哨が置かれていました。
A: 雄略-水窪-飯田-長野-高山-石動-辰野(静岡県)~長野県~岐阜県~富山県~福井県
B: 下田-時谷-南牧-松井沢-伊豆群-日光-白河-富岡(静岡県)~山梨県~長野県~群馬県~栃木県~福島県
- ② 諏訪には移動式の電波警戒機乙が設置されていました。



Aの警戒線は中央・関西方面への東襲撃の侵入を、同じくBの警戒線は関東方面の侵入を監視する役割を担っていたと考えられる。天印の方向→今回、新聞記事になった飯田市上郷にあった対空監視哨は長野の水窪へ電波を送信していた。一方、長野の大城山にあった対空監視哨では飯田・高山の両方からの電波を受信していた。長野野戦・伊豆群代官では、兵員30名が交代勤務した。この記録があり、かなり大規模な設備であったと推察されます。



辰野の対空監視哨が置かれていた大城山(1027m)

本土電波警戒機要図(終戦ころにおける)

電波標定機開発の取り組み

○「ウルツブルク」製造開発への取り組み

電波警戒機=目標物捜索用レーダー

電波標定機=火器管制レーダー(射撃管制用の追尾レーダー)

(いずれも旧陸軍による呼称)

電波標定機の開発を重視していたことから火器管制レーダーの本格的な開発ははや遅れていました。昭和17年頃からドイツの新型射撃管制レーダー「ウルツブルク」の入手を計画。連陸潜水艦作戦で輸入を試みましたが上手くいかず、その後、昭和18年に潜水艦と飛行機で命をかけて来日したドイツ・テレフンケン社技師フォードス氏の指導の下、製造開発に取り組みしました。最終的には1号機が東京我山の高射砲陣地に、開発されたばかりの15センチ高射砲と組み合わせて設置されましたが、十分な効果を得ることなく終戦を迎えることとなりました。このあたりについては、津田清一著『幻のレーダー ウルツブルク』と吉村昭著『深海の使者』に述べられています。



「ウルツブルク」の製造開発は、多摩陸軍技術研究所と民間会社(日本無線・東芝ほか)ですめられました。その性能を左右したのは真空管の出来具合でした。「30」レーダー「ウルツブルク」には、ここ岡谷も生産に関わった舞台として出てきます。わが「日本無線の上野辰一重臣は林虎雄(戦後の長野県知事)の協力を得て、諏訪湖の高岸の岡谷地域にガラス加工工場を建設した。下諏訪、上諏訪などの、昔に栄えた片倉製糸(株)や下諏訪の製糸工場を電子部門の精密検査と精密機械部品、外部の部品採り上げ工場などに転換する工場建設を行った。(以下略)」

2017年1月25日 信濃毎日新聞の記事「新田の山に防空監視哨の跡に興味を覚えるきっかけとなった書籍」

ニコニコボックス

小口裕司 創業67年になりました。これからも皆様よろしく願いいたします。

薩摩建・高木昭好 諏訪湖清掃へのご協力ありがとうございました。

牛山幸一・梅垣和彦・小口隆・中嶋孝一・中村文明・矢島實 先日の富岡ロータリーでの調印式、親睦ゴルフお疲れ様でした。

林広一郎 本日はプログラム委員会が卓話の内容を決める最後の卓話となります。委員長として卓話を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

今井康善・太田博久・大橋正明・笠原新太郎・上條英雄・北澤洋之介・小山智・佐伯克己・佐藤有司・瀬戸雅三・高木昭好・竹村一幸・中畑隆一・濱毅・林広一郎・林裕彦・林靖高・平沢清文・宮坂晃介・宮坂伸・守屋麻里・山岸邦太郎・山崎典夫

本日は林広一郎会員の卓話です。林会員、よろしく願いいたします。また先日の諏訪湖清掃、早朝よりお疲れ様でした。

出席報告

会員数41名、出席者31名、出席率79.49%、前々回訂正82.05%



友好クラブ締結調印式 平成29年5月24日 於 ホテルアミューズ富岡

2016～2017 年度 RI テーマ
人類に奉仕するロータリー
ROTARY SERVING HUMANITY

